

第 34 回番組審議会議事録

- 1 . 開催年月日 平成 24 年 4 月 26 日(木) 午前 10 : 30 ~ 11 : 35
- 2 . 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
- 3 . 委員の出席 委員総数 10 名
- 出席委員 7 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、井上光央、須貝昭子、
中村保、中 宏、牧野直子
- 以上 7 名
- 放送事業者側出席氏名 岡田 堅治 (取締役)
大平麻由美 (編成課長)
野間 耕平 (編成課員)
- 4 . 議 題 1) 番組 タッキースペシャル「箕面から被災地へ 心の絆」
2) 審議
3) その他番組に対する意見
- 5 . 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

おはようございます。3月11日、東日本大震災から1年の日に、箕面マーケットパークヴィソラのエルステージで行われた赤十字奉仕団と箕面青年会議所による震災復興活動に協力してステージで行ったイベントのもようを「心の絆～箕面から被災地へ」と題して公開生放送させていただきました。前半はチャリティコンサート、後半は被災地に派遣された箕面市職員の報告会を行いました。時間は2時間、午後1時から午後3時まで。番組中で触れていますので詳しいご紹介は割愛させていただきますが、箕面市消防署東分署のかた、建築住宅課のかた、健康増進課の保健師さんにご出演いただきました。みなさん違った分野で被災地に派遣されましたので、それぞれの立場から報告していただきました。その後、1分の黙とうをはさんで、倉田市長からのご挨拶、そして、会場の出演者・観覧者全員で被災地への思いを込め、「ふるさと」「上を向いて歩こう」を合唱しました。

(2) 審議

委員長：ありがとうございます。では、みなさんに意見を頂戴したいと思います。

委員：みのお市民活動センターではタッキー応援団でもブースを出していたので、その宣伝もさせていただきました。公開生放送を行った場所が野外だったため、人が行き交う中、こういった内容のものをやるのはなかなか難しいと感じました。音そのものはきれいに入っていたのですが、会場のようになかなか伝わってこない。ゲストが被災地での経験を話している内容も、ラジオを聞いている限り伝わってくるのですが、会場にいらっしゃったかたがどこまで聞いてくれたか。ラジオで聴く分には会場の雰囲気分からないので、室内でパネル討論会をやっているのと同じように聞こえた。現場ならではの息づかい・迫力が伝わってくるような放送ができなかったのかな、と思いました。

委員：番組を誰に向けて聞かせるのか。せっかくの貴重な体験なので、もっとたくさんの人に聞いてもらう。あの場所にいなかった人。あの場所にいた人ははっきり言って聞いてないと思うんですよ、箕面市民に向けて箕面市の職員がこんなところでこんなに頑張っているんだと知らせるためには、せっかくコミュニティ放送という媒体を活かすためには、もうちょっとPRされても良いかな、と。あと、現場の臨場感を伝えるためにその場の人に「今の話、いかがでしたか？」というのを聞いていただくと雰囲気伝わったのかな、と思いました。

事務局：実情を申し上げますと、この報告会に与えられていた時間自体が、前のコンサートでかなり押してしまって非常に短くなってしまいました。イベントだけで考えたら終了を遅らせることもできたのですが、2時46分の黙祷は確実にしないといけないという状況もありましたので…。非常にいいお話だったので、また別の機会を設けて伺いたいと思っています。

委員：せっかく「3・11」という日なので、現地のFM局と結ぶなど、もう少しドラマチックに番組が構成できたら面白いかな、と思いました。

委員：私も「3・11」のイベントの共催というような立場にいたのですが、いろいろな団体がパネルで支援活動を紹介していたので、なんとか紹介していただきたいな、と思っていました。せっかくコミュニティ放送でいろいろな活動を紹介するという趣旨があるのであれば、もう少し番組の構成上何とかならなかったのかなあ、と。司会の方が聴きづらかった。何を言っているのかな、というところがあった。時間が押して慌てた感じの放送だった。ラジオ番組としてもちょっと落ち着かない感じだった。あと、箕面市民として、市の3人のかたのお話、なかなか普段聞けない貴重な内容だったので、ぜひいろいろなかたに聞いてもらえたら、と思いました。

委員：最後、司会者が音楽をかけながら、「被災地から…」と締めていらっしかったのがものすごく良かった。

委員：気になったのは、司会者の忙しい感じの進行が伝わってきたこと。
目的から言うと、音楽ステージよりも後半の報告会のほうが大事のような…。

事務局：構成上、2時間の枠を報告会を中心に構成できればとの思いはありましたが、主催者とお話しあいの上で、決まっているものを、タッキーがどのように放送するかに精力を注ぎました。

委員：時間がないというのがすごく伝わってしまって、せっかく3人のかたが
凄く良い貴重な体験の話をされたので残念でした。また、これを続けるべきだと思いますし、司会者もすごく頑張っているのが伝わってきましたので、納得の放送です。

委員：とても良かったな、と私は思いました。テレビでは嫌というほど現場を見せられている。今回報告会に出演されたのは職員のかたのような話は、テレビでは分からない。テレビの画面で見るとは違って、「こんなに働いていたんだ」という感想を抱きます。さまざまな話は聞いてはいたのですが、こんなに細かくなかった。これがラジオの良いところですよ。ね。「箕面の人があちらでこんなことを経験したんだ」というようなことも初めて知りました。最後の歌は懐かしい歌でしたが、「たくさんの人と一緒に歌っているようだ」ということは分かりました。

委員長：私たちも阪神淡路大震災を経験し、テレビでは何度も何度も放送がありました。テレビを見ていると、どこかで他人事のような感覚があったかもしれません。こうしてこの番組を聞くとものすごく身近に感じられました。これだけたくさんのかたが箕面市から支援に行ったのだという話をきくと、自分も現地に行った気持ちになりました。「自分も参加できた」という気持ちになったのは番組を聞いていて良かったことです。ただ、急なこともあったのでしょうが、ちゃんと流れができていなかったという不備もありますが、やりとりは箕面市民みなさんが聞いて納得していただいたかな、と思います。

事務局：臨場感をどうやって伝えるのか、という部分で、周囲の音の配分を高め

るのは検討したいです。

委員：2つ気になったことがあります。まず「箕面市消防署東分署警防第一課の　さん」と紹介していたところを、行政に了解を得てもっと短縮して「箕面市消防署の　さん」と言ったほうが分かりやすい。「箕面市消防署……」と長々と言われても聞いている方はなんのこっちゃ、となる。2つめは、イベントの進行アナウンスとラジオ番組で伝えるアナウンスは違うと思う。たとえば、黙祷。ここは全く音がなくなるのですが、ラジオ番組としては「みなさん東北の方を向いて心から黙祷をされています」などという声を入れたら良かった。状況を伝えるのがラジオの役割。進行の役割としては「1分間の黙祷です。」で良いと思うが、同じアナウンサーがやるのは大変だと思うが、ラジオは何のために伝えているのか、というところを把握していただかないと。状況をきちっと説明していただくのはラジオのアナウンスとしては大切だと思っています。

委員長：私も同じことを感じていました。黙祷の間ずっとしーんとしていて、みなさんがその間一生懸命黙祷をされているのは理解できるのですが、そのまま無音で放送するのか、今おっしゃったように「皆さん黙祷をされています」と小声で言うのがいいのか、みなさんにお聞きしたいのですが。

委員：僕の考えでは、イベントしては黙祷1分間というのはそれなりに意義がある。テレビならそれで良い、状況が分かるから。たとえば広島の黙祷でもテレビでさえ、アナウンサーが低い声でコメントを言っていますよね。高校野球などでも。

事務局：放送前に黙祷をどうするのか、という議論はありました。コメントを入れたほうがいいんじゃないか、という意見もありましたが、敢えて音を入れずにいこうという判断をしました。やり方としては両方考えられるとは思いますが、ラジオを聞いている人でこの日のこの時間に黙祷している意味が分からない人はいないのではないかと思い、この1分間は震災発生から1年の神聖な1分間だと思い、音を入れずに放送しました。

委員：その 1 分間を大切にしようという思いは分かりますが、やはり基本的には「送り手の奢り」だと思います。リスナーがどういうふうにきいているのか、ということはいつも原点にあって、受け手の想いと送り手の想いというのは違うと思います。黙っていたほうが伝えられたのか、コメントしたほうが伝えられたのか、もっと討議されるべきでしょう。何が言いたいのかというと、テレビと同じような放送をラジオでしていることが多いのでそこをきちっと捉えていかないといけないのでは、というのが個人的な見解です。これは今回だけの問題ではないと思います。

委員：現場にいましたが、実際黙祷をしている人間でさえ、正直最後の方は「長いな」と感じた。ですので、送り手として、聴取者がみんなそう思っているのでは、というのはちょっと違うと思う。

委員：途中で「皆さんが東北のために心をこめて黙祷を捧げられています」とちょっとコメントをすることでより伝わることもあるのでは、と思います。

委員：私も当日黙祷をしていましたが、状況があって黙祷をするのと、ラジオで音がぶつと 1 分間切れるのと、こんなに違うのか、と感じました。外の声も伝えてほしい、という意見がありましたが、司会者は主催者側として進行しているので、第三者的に周りの声を拾うのは別の人じゃないと無理ですよね。ですので、進行役とは別に会場の一人ひとりのようすをみながら、あの人は一生涯懸命聞いて聞いているからあの人に話を聞いてみよう、という立場がないと到底できないな、と思いました。一人だと進行するのに精一杯なので、客観的に会場のようすを眺められる立場の人がいないと。

委員長：私もラジオで聞いていて黙祷の時間は長いな、と感じました。いま事務局から説明があって、このような議論があってこういう結論になったというのを聞いて、ほっとした、というか、これだけきちっと番組自体を細かく意識付けしてチェックしてやってくれてるんだな、というのが分かりました。状況状況に応じていろいろなやり取りをしていただければと思います。

委員：来年も3月11日が来るが、タッキーが主導権を持って進行できれば良いと思います。

委員：災害とコミュニティ放送は切っても切れないので、タッキーとしてはどう取り組んでいくかをはっきりしていかないと。主体的に組み立ててほしいな、と。災害時に臨時のコミュニティ放送がたくさん立ちあがったのですが、ラジオ石巻が出版した本を読むと、コミュニティ放送がいかに大事か、「助けて」と局に連絡が入り、局も被災していて...という緊迫した状況が伝わってきます。これから広域的にコミュニティ放送同士が情報交換するとか、発展してほしいなと思いますし、できればこういうかたを招いてお話を聞くとかシンポジウムをすることもありかと思います。災害時にどういうことができるのか、コミュニティ放送の可能性を探っていくヒントになるかと思います。

委員長：もともとタッキーが立ち上がったのも災害時の対応が大きな要素なのですが、何年か経って、現在箕面市長も災害への対応をきっちりするとおっしゃっている。それに対してタッキーがどのようなことをやっているのか、参考にお聞かせ願いますか。

事務局：毎年9月1日の防災の日を中心とした防災週間と、1月17日の震災とボランティアの日周辺には、防災対策に取り組んでいる市民のかたにお話を伺うなど、特集的なことをやっています。日頃の取り組みで言いますと、箕面市に災害対策本部が設置された場合、スタッフを派遣して災害対策本部の中から中継を行ったり、市の防災訓練には必ず参加してそこから放送や情報収集のシミュレーションをしています。あと、緊急地震速報が導入されましたので、今後その告知も行っていきます。緊急地震速報は、具体的には、箕面市とその周辺で震度4弱以上の地震が発生する可能性があるときに放送に割り込んでアナウンスが流れます。そういうかたちで災害時にはタッキーという役割が担えるように日々の取り組みをしています。

委員長：今報告していただいたようなことをやっていますので、これについてご意見いただけましたら。

委員：高山の FM 放送を見に行ったのですが、高山市とタイアップしてラジオを月 300 円ほどで市民に有料配布しています。何が違うかというと、緊急の場合は自動的にスイッチが入るようになっている。たぶんいくつかの FM 放送がいろいろなやり方で行政と組みながらやっていると思う。秋田県では NHK が中心となって FM 局とネットワークを組んでいる。全国のコミュニティ放送の災害に対する動きを把握して、いまタッキーとして行政にどのように提案する、というようなことも含めて情報を集めることは必要。箕面市の防災対策と組み合わせて、きちんとネットワークを組んでいく。その中心にタッキーを置くと、タッキーと防災というのが活きてくると思う。

委員：この前の春の嵐がありましたよね。あのとき、西風がきついで急いで雨戸を閉めました。台風情報だったらみなさん早めに準備するでしょうが、このときはいきなりきたので。そのときテレビをつけたら、トラックがひっくり返っているとかいろいろな情報がありました。そのときタッキーは音楽を流していたかと思うのですが、何か情報は放送しましたか。

事務局：暴風警報が発表された時点で何回か放送しました。

委員：テレビでは早くから台風並みの暴風がくるから気をつけるように、というアプローチがありましたよね。

委員：何かあったときに消防署に問い合わせが殺到して、消防署側はその対応に追われて本来の職務が遅れてしまう...という話がありますが、そういうときに消防署に電話するのではなく、ラジオをつける習慣があればパニックすることもないでしょう。夜間は仕方がないかも知れませんが、昼間なら消防署と連絡を密にとっていただいて箕面ではこういう状態です、という情報を早く流していただく。そして、情報が流れるということを市民が知らないとラジオのスイッチをつける行動につながりません。

委員長：何かあったらラジオをつける習慣にもっていきたいですね。箕面市が今年は防災に力を入れるとっていますよね。各自治会に防災組織をつくって云々、ということをしていますよね。この機会にタッキーが防災

に関してひっくり返して行政とのやり取りをするのは大事なことだと思いますので、そういったことをなさっているかと思いますが、より一層強く押してやっていただければと思います。よろしくお願いします。

委員：行政は形を作った時点で終わり、というところがあるので、タッキーが中心となってネットワークの仕組みだとか、ラジオを使ってどうするかとか、そういうことを含め、人が必要なことなので人件費のことも含め、仕組みとしての箕面市の特別予算を獲得していくことも必要になるのでは。

委員長：審議委員からこんな話があったと挙げていただいて行政の方へ推していただければと思います。そろそろお時間ですが、何かありませんか…。長時間ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 24 年 4 月 26 日

箕面 FM まちそだて株式会社

番組審議会